

2009年度大学入試センター試験 解説〈倫理〉

第1問 青年期の課題 (8点)

問1 正解は④

たしかに「自分の健康」については男女ともに年齢層が高いほど悩みや不安を持つ人の割合が多いが、「家族の健康」についての女性の意識を年齢別に見ると、悩みや不安を持つ人の割合が最も多いのは60～69歳となっており、70歳以上になるとこの割合は低下している。

問2 正解は④

自我同一性（アイデンティティ）とは自分を自分たらしめるもののことで、また自分が何者であるのかということについて確信を抱いている状態のことをも指す。その反対の状態が自我同一性拡散（アイデンティティ・クライシス）であり、この状態になると④のように自分の存在意義について思い悩むことになる。①は人生に「空虚さ」を感じるがあったという点で自我同一性拡散に近いが、「自分史」を書くということは冷静に自己を眺めることができている状態である。②は自分の人生に焦りはあるが、大きな迷いはないということなので、自我同一性拡散とは言えない。③は様々な心配や悩みを抱えているという記述だが、それによって自我そのものが危機に陥る状態には至っていない。

問3 正解は①

エリクソンのライフサイクル論についての問い。青年期が模索を通してアイデンティティ（自我同一性）を確立する時期であるということは最も基礎的な事項であり、ここからAがBに当たるということはすぐに見抜ける。これに続く三つの時期については、各段階の発達課題がそれぞれ「親密さ・世代性・自我の完全性」であるということを知っていれば容易に解けるが、そうでなくともAが結婚、Cが人生の総括、Dが育児に関連する記述であることまで見抜ければ、それぞれがどのような順序をたどるかは推測できるはずだ。

第2問 喜怒哀楽について（源流思想）（24点）

問1 正解は③

ソクラテスの目標は、アテネの市民の魂(プシュケー)を善き方向に導くことであった。問題文で引かれた「ただ生きることではなくて、よく生きることなのだ」という言葉は『クリトン』にあり、死刑を受け入れるか、国法を破って逃亡するか選択を迫られたときにソクラテスが述べたとされる。

正解は②

孔子は人と人の間に自然に生まれる親愛の感情を仁と呼んだ。孝(親子愛)・悌(兄弟愛)といった家族愛が基盤にあり、それが押し広げられて克己(私利私欲)・忠恕(他者に対する思いやり)といった他者に対する心がまえとなる。

問2 正解は①

ヘレニズム期の思想家エピクロスは、外界からの刺激に煩わされることなく魂の平静を保つことこそが永遠に続く快楽と考え、これをアタラクシアと呼んだ。また、心を乱す原因となる公共生活を避けることが望ましいと考え、「隠れて生きよ」を信条とした。②メソテース(中庸)はアリストテレスの求めた態度。③エロース(魂がアイデアを恋い焦がれる精神的欲求)はプラトンが強調したもの。④アパテイア(魂が情念にかき乱されることなく内的な調和を保った状態)はゼノンが理想とした境地。

問3 正解は②

アリストテレスは、個人の身分や能力の差によって名誉や利益を配分する配分的正義と、補償や刑罰によって不公正を是正する調整的正義の2種類の正義を指摘し、これらを状況に応じて果たすことで、ポリス全体の正義(全体的正義)が実現すると考えた。

問4 正解は④

キリスト教における隣人愛とは、神は無差別で無償の愛(アガペー)を降り注いで下さる、だから私たちが敵味方の区別なく愛さなくてはならない、というものである。復讐したいという気持ちを持つのは相手のせいではなく、自分の心の持ちようの問題。だからこそ、その気持ちを神に委ね、悪に対して善で返しなさいというのがパウロの解釈である。なお、資料中の「次のように書いてあります」の直前の中略の部分には、「愛する人たち、自分で復讐せず、神の怒りに任せなさい」とある。

問5 9 正解は③

イスラームでは五行(ムスリムが行うべき5つの義務)の1つとして喜捨(ザカート)を挙げるが、それは貧しい人に対してであって「為政者への献金」ではない。①イスラームでは、これまでもアブラハムやモーセ、イエスといった預言者が神の言葉を伝えてきたが、人々がさまざまな過ちを犯してきたので最後の預言者としてムハンマドが遣わされたと考える。②アッラーとは唯一なる神という意味で、この世界を創造・支配する全知全能の存在である。④ムハンマド生誕の地である聖地メッカへの巡礼(ハッジ)も五行の1つである。

問6 10 正解は④

ブッダは、この世の全ての存在は法に基づいて変化・消滅し(諸行無常)、不変の自己なども存在しない(諸法無我)を理解すれば、自己に執着する心(我執)もなくなり煩悩からも解放されて、苦のない心穏やかな境地(涅槃寂靜)に至れると説いた。②「社会的規範としての礼儀」を求めたのは孔子。③「不殺生などの道徳的戒め」の徹底を求めたのはヴァルダマーナ。

問7 11 正解は①

老子は、万物の根源である道に従って何もしなければ、その働きによって自ずと上手く行く(無為自然)と考えた。そして、こうした作為を否定した態度が、『老子』では「上善は水の如し」と高さから低きに流れる水に喩えて表現されている。②「煩悩」は仏教用語。③「真人」は荘子が理想とした姿。④「天の命」をかかげるのは儒家思想である。

問8 12 正解は③

本文の最後に「一人ひとりの心に芽生える復讐心から目をそらさずに根気強く克服していく努力が求められる」とある。人間は感情をもつ動物であるから時に復讐心に駆られることもあるが、そうした自分の心に向き合うことも必要だ、ということである。「自分自身の復讐心と向き合う努力」とある③がズバリ正解。①「人間の知恵の限界を認め、寛容な絶対的存在に復讐を委ねて」が本文にナシ。②「いかなる不正に対しても怒りや憤りを感じることなく」というのは無理である。④「復讐心か寛容の心かのいずれかを選び取る」が本文にナシ。

第3問 他界の捉え方（日本思想）（24点）

問1 13 正解は②

『古事記』において死者の世界は黄泉国とされる。イザナキは亡くなった妻のイザナミを追って黄泉国までやってきたが、イザナミの穢れた肉体を見て逃げ帰るといふ神話が記されている。

14 正解は③

徳川家康に登用された林羅山は、自然界に理があるように人間の社会にも確固たる身分秩序が存在する(上下定分の理)として、士農工商の封建的身分秩序を肯定した。

問2 15 正解は④

折口信夫は、日本の神の原像を共同体の外部から訪れる存在と考え、これを「まれびと」と呼んだ。資料からも読み取れるとおり、鬼などが外からやって来て恵みや幸福をもたらすと考えたのである。よって「鬼が他界から運んできた宝」とある④が正解である。

問3 16 正解は③

源信は著書『往生要集』で、南無阿弥陀仏と念仏を唱えれば阿弥陀如来の力で極楽浄土に往生できることを説いた。しかし、その念仏は阿弥陀の姿や功德を心に想いながら念仏を唱える観想念仏の段階にとどまっていた。①これを打ち破り、ただひたすら阿弥陀の名を唱えること(=称名念仏)を求めたのが空也であり、後の法然の専修念仏に発展していく。②「ひたすら坐禅に打ち込むこと(=只管打坐)」を求めたのは、曹洞宗を開いた道元。④南無妙法蓮華経と「題目」を唱えることを求めたのは、日蓮宗(法華宗)の日蓮。

問4 17 正解は①

古学派の荻生徂徠は、古典をよく読んで古代聖人の先王の道を知り、彼らが作り残した礼楽刑政の制度を整備すべきことを主張した。

②「孝」の実践を求め「近江聖人」と称されたのは、日本陽明学の祖と位置づけられる中江藤樹。③孔子・孟子への回帰を説いて朱子学を批判し『聖教要録』を著したのは、古学派を興した山鹿素行。④孔子の言葉を記した『論語』を宇宙最高の書とし、うそ偽りのない「誠」の道を説いたのは、同じく古学派の伊藤仁斎。

問5 18 正解は④

近代の明治国家は神道を国教と位置づけ、神仏習合を否定した。よって国家神道を「一つの教えへと昇華」された例とするのは不適當である。①神宮寺、②本地垂迹説、③権現信仰は古代から神仏習合において見られた。

問6 19 正解は②

浄土信仰では、悟りを完成した清浄なる阿弥陀仏の国土が西方に存在すると考える(西方極楽浄土)。よって②が正解だが、資料の読解では答えられない難問であった。

問7 20 正解は④

幸徳秋水は中江兆民に師事した後に社会主義に傾倒し、日本初の社会主義政党である社会民主党の結成(1901)に参加、日露戦争に対する非戦論を『平民新聞』で展開するなど急進的な活動を行ったが、大逆事件(1910)で天皇暗殺計画の罪に問われて死刑となった。④は著書『廿世紀之怪物帝国主義』に関する説明である。①「抵抗権を認める私擬憲法を起草」したのは植木枝盛(東洋大日本国国憲按)。②「公害問題」に身を投じたと言えば足尾鉍毒事件の田中正造。③西洋の「実学」を重視して役に立たない儒学を「虚学」と切り捨てたのは福沢諭吉。幸徳秋水について知らなくとも、①から③を冷静に消去すれば正解できる。

問8 21 正解は①

本文の趣旨を答える問題では、冒頭と終わりの内容をしっかりと押さえよう。本問では最後の一文に「両者(=他界と自然)は渾然として、我々の命や魂の在り方と関わって、今もそこから、我々の在り方を問うている」とある。『古事記』の黄泉国や折口信夫の指摘したまればとのように、我々の生きる世界と他界とはつながっていて、様々な影響がもたらされると考えられてきた。よって、「種々の考えが重層的に含まれる世界として、今も身近なところに存在している」とある①が正解である。②「自然との理想的な関係」「人間のあるべき姿」が本文にナシ。③「この世の問題と区別し、日常には持ち込まない」ことはできない。④「他界からの問いに正しく答える」が本文にナシ。

第4問 理性について(西洋近代思想)(24点)

問1 22 正解は②

ヘーゲルによるカント批判は昨年本試に引き続いての出題となる。カントの道徳論は内容を問わずに普遍的な法則たりえるかどうかという形式だけに着目するものであるが、このような形式的で抽象的な道徳論は現実世界に適用できるものではないとヘーゲルは批判するのである。

23 正解は③

キルケゴールの開いた「実存主義の道」をたどった後継者を選べばよいので、選択肢でこれに当たるのは③のヤスパースしかいない。なお④のフッサールはハイデッガーの師に当たる哲学者だが、彼の哲学は現象学と位置づけられるもので、個人

の代替不可能性を強調する実存主義の哲学とは異なる。①のショーペンハウアーはカント哲学を独創的に解釈し、現象の根底に盲目的な「意志」があるという発想が後のニーチェに大きな影響を与えた。②のベルンシュタインはマルクス主義の運動のなかで革命より改良を重視し、漸進的に資本主義を社会主義へと転換していくことを主張した人物。

問2 24 正解は②

ヴォルテールは18世紀フランス啓蒙思想のもっとも代表的人物。イギリスに渡ってニュートンやロックから合理主義の思想を学び、とくにロックからは寛容の精神の重要性を継承している。①のモンテスキューはヴォルテールと同時代人の啓蒙思想家で、三権分立の思想で有名。彼が絶対王政を批判したことは事実だが、革命によりそれを転覆する主張は行なっておらず、思想的にはより穏健な立憲君主制の立場をとった。③のディドロは当時の知の集大成と言うべき『百科全書』の編集責任者だが、体制を批判し、また宗教を批判した。④のサン＝シモンの立場はエンゲルスによって「空想的社会主義」と呼ばれている。つまり、たしかに彼は「理想社会を構想」したが、「資本主義の科学的分析」がなかったのであって、それを行ったのがマルクスの「科学的社会主義」だとされる。

問3 25 正解は③

「延長」という概念がやや分かりにくいだが、これは要するに空間に位置を占めるということである。心には形がないのに対し、モノは必ず形を持っている。両者は性格が根本的に異なるということで、ともに完全に独立した「実体」だとされる。①はフロイトの提唱した超自我（スーパーエゴ）についての説明となっている。②は前半は正しいが、後半が誤っている。デカルトによると、良識（ボン・サンス）は信仰の多寡に応じて配分されるようなものではなく、万人に平等に与えられるとされる。④の「高邁の心（高邁の精神）」はデカルトの提唱した概念だが、情念と無関係なのではなく、むしろ情念を制御しようとするときに発揮される。

問4 26 正解は④

ベンサム功利主義は「最大多数の最大幸福」という立場で表される。すなわち、ある行為が妥当であるかどうかは、それが社会全体に幸福や快樂をもたらすかどうかという観点から評価される。②がやや紛らわしいが、ベンサムの立場は「その時々自分の快樂を最大にすること」ではない。現時点の快樂を我慢することにより大きな快樂が実現するのであれば、そちらの方が望ましいとされる。①は行為の結果を度外視するカントの立場である。③はベンサムのような功利主義に対して20世紀にロールズが行なった批判に近い。ベンサムの立場はあくまで「社会の幸福の総和」を増大させることに目標が設定されているので、不平等は是認されてしまう。

問5 27 正解は①

いわゆる「実存の三段階」の最終段階である宗教的実存についての正しい記述である。人間に対して不条理な内容を含む命令を下す神を敢えて信じること、これこそが信仰の核心であり、もっとも真理に近い生き方であるとされる。②の「現世の勤めに専心」すべきという記述はカルヴァンの職業召命観に該当する。キルケゴールはひたすら信仰することによって本来の自己を獲得できると考えるのであって、世俗的な職業生活に励むことで真理に近づけるとは考えなかった。③はニーチェの立場。キルケゴールが神を否定することはありえない。④は魂の肉体からの解放すなわち死によってのみ救いがあるとの記述だが、キルケゴールは神の前に単独者として立つ宗教的実存により本来の自己を回復できると考えた。なお「魂を肉体から解放」することで故郷に帰れるという趣旨の発想はソクラテスに顕著に見られる。

問6 28 正解は③

信念とは客観的な行動に現れるものとして理解すべきであって、信念についての主観的な意識やその表現において理解してはならない、というのが引用文の趣旨であり、③がこれに適合する。①はこれと正反対の趣旨であり、引用文の3－4行目の「行動の仕方という点で異なっているのでなければ……それらを異なった信念だとすることはできない」という記述と矛盾する。②は意識の違いが行動の違いをもたらすとの趣旨だが、これは3－4行目の「意識の仕方が異なっても……」という記述によって否定される。④は引用文6－7行目と矛盾する。国語の問題だが、プラグマティズムが「行動」をすべての基準に置いたことを知っていれば、引用文を読まなくても「行動の仕方の違いに注目すべき」という③が正解だと推測できる。

問7 29 正解は②

日本語で「神がかり」という言葉があるが、これは心霊が人間に乗り移ったとされる事態を指している。つまり、常人とはまったくかけ離れた人が神聖な存在だとされたのである。ところがいつしかそうした人々は単に異常な存在として隔離・排除・差別の対象となっていった。フーコーが『狂気の歴史』で描いたのも、ヨーロッパにおける同様の事態である。「男性的／女性的」という概念が歴史的・文化的に形成された構築物にすぎないと明らかにしたのがジェンダーの研究だが、フーコーも同様に理性と非理性（狂気）という区別が歴史的なものに過ぎないとみなす。①は2004年に亡くなったばかりのポスト構造主義の思想家ジャック・デリダについての記述。③は構造主義の文化人類学者レヴィ＝ストロース、④は特異な現象学を展開したエマニュエル・レヴィナスについての記述。とくにデリダとレヴィナスは超難解な哲学者だが、それぞれ「脱構築」と「顔」がキーワードとなる。

問 8 30 正解は④

理性についての自省を求めるとというのがリード文の核心的な内容であろう。④にある「対話」という表現はリード文に直接的に明示されているわけではないが、これがリード文に矛盾する表現ではないことはわかるし、リード文のおおよその趣旨がハーバーマスの思想の路線にあることから、これが妥当であると推察できる。①と②はそれぞれ「権威」「伝統的な社会規範」に依存すべきという趣旨が明らかに誤り。③は感性が理性に対置されてこちらを重視すべきとある点が正しくない。リード文の最後で「理性に対する反省」が求められているが、「反省」という作用は自己を客観的に捉えるということであり、それ自体が理性的な営みである。これは決して感性によって行われることでない。

第 5 問 正しい行為について（現代社会）（20点）

問 1 31 正解は②

フランクフルト学派の第二世代に位置づけられるハーバーマスの思想を問うもの。②で説明されているのはハーバーマスが理論化した「対話的理性」であり、対象を支配する際に発動される理性（道具的理性）に対して合意形成を目指す際に発動される理性を指す。①は他者に危害を加えない限りでの自由を主張した J.S.ミルの議論を踏まえ、20世紀アメリカで正義について哲学的に深く考察したロールズについての記述。③と④はそれぞれロックとルソーの社会契約説についての記述である。

問 2 32 正解は①

オタワ条約は正式には対人地雷禁止条約といい、1992年に始まった N G O の活動を背景にして1999年に発効したものである。①にある通り、米ロや中国などの軍事大国が署名していないことが課題となっている。細かい知識問題と言えるが、オタワ条約は2007年本試でも出題されている。

問 3 33 正解は①

これはユネスコではなくユニセフ（国連児童基金）についての記述である。②③④はいずれも正しい。

問 4 34 正解は③

引用文およびチャートによると、重大な疾患に対して求められているケアは、身体的苦痛のみならず、社会的な苦痛・精神的な苦痛・スピリチュアルな苦痛という三つの苦痛にも適切に対処することが求められている。こうした総合的な全人格的な治療が緩和ケアだということであるので、スタッフが「身体的苦痛に集中して治療」というアプローチは明らかにこれと矛盾する。①は引用文の「早期から」

「予防」といった記述に対応し、②も定義および図に家族の重要性が言及されている。④にある「医療従事者と患者のコミュニケーション」といった趣旨の表現は定義と図に見出せないが、定義の中で、そもそもこの緩和ケアはクオリティ・オブ・ライフを実現するためのものであるとされている。だとすると④の「患者のニーズにこたえる」ということが目的として設定されるのは当然であり、またその手段としてコミュニケーションが重視されるのも当然である。

問5 35 正解は②

引用文中のエミーとジェイクはいずれも他者を傷つけないように配慮することを責任だと考えているのであって、④はいずれの立場とも異なる。二人の違いはと言うと、ジェイクが他者に距離を置くことが他者を尊重することだと考えるのに対し、エミーは逆に積極的に行為すること、期待に応答することが他者を尊重することだと考えている点にある。したがって「積極的」という文言の含まれる②が正解となり、③はジェイクの立場である。①の「危害を禁止する」とは引用文5行目にあるジェイクの倫理観であり、また「一般的なルールが存在する」という記述も倫理・道徳の本質から外れる発想である。

問6 36 正解は③

仕事をやめた後に正社員として再就職することは現実にはかなり難しく、本人が望んでもパートタイム労働を余儀なくされることが多いというのが現状である。女性の年齢別就業率がM字カーブを描いているという事実を知っていればこれが正解だとすぐにわかったはずだ。①と④は現代家族において核家族がきわめて増えているという常識があれば除外できる。②については、たしかに育児介護休業法の制定などにより、法的には男女の平等化が進んでいるが、現実には家事・育児を行なっているのは圧倒的に女性である。

問7 37 正解は④

リード文の趣旨は全体として、他者を気遣うことが重要であり、それは社会の既存のルールに従うこととは性格が異なるものである、といったものであろう。この二点を満たしているのは④である。①と②はいずれも既存のルールが他者を気遣うことに資するとしており、根本的に正しくない。また①は目標が「公平な家族関係」という狭いものに設定されているが、これはリード文第4段落で否定されているし、②は「公平な社会という原理」が否定されているが、そうした記述は見られない。③では再考すべき人間関係として「人と人との密接な関係」が挙げられているが、これはむしろケアの倫理によって目標とされるべき関係である。